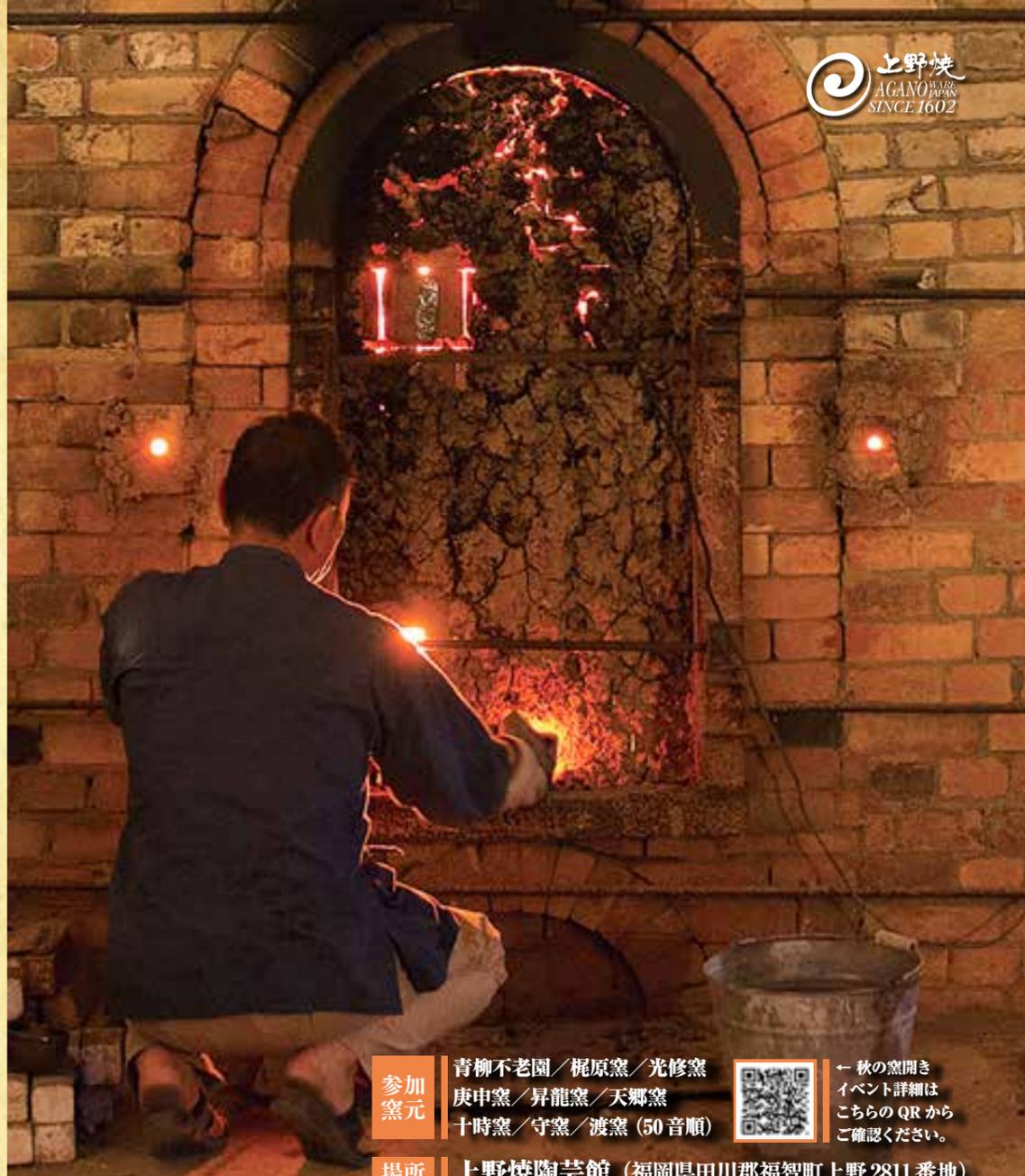


上野で出会う、あなたと器。



**参加窯元** 青柳不老園／梶原窯／光修窯  
庚申窯／昇龍窯／天郷窯  
十時窯／守窯／渡窯 (50音順)

**場所** 上野焼陶芸館 (福岡県田川郡福智町上野 2811 番地)

← 秋の窯開きイベント詳細はこちらのQRからご確認ください。

AGANO WARE  
AUTUMN FESTIVAL

第26回  
上野焼  
秋の窯開き

2022.10.28 (FRI) 金 ▶ 30 (SUN) 日

秋限定の3つの特別企画イベントを上野焼陶芸館で開催。



**個数限定・特別販売**  
お気に入りの器と過ごす自分時間。各10個の限定販売。(土日のみ ※なくなり次第終了)



**特製スイーツ付抹茶セット**  
密芋を使用したスイーツと八女のお抹茶をセット販売。(土日のみ ※各日限定 50 個)



**大抽選会** 特賞は JAL 東京往復航空券！  
参加窯元巡りとご購入で抽選参加。上野焼陶芸館前で台紙を配布します。(土日のみ)



平成 17 年生まれの 17 歳。金田小学校 1 年生の時に糸田町スポーツ少年団柔道部で柔道を始める。大牟田高校在学中。令和 4 年度全国高校総体柔道競技女子 63kg 級 5 位。

Yuna nakamura  
中村優菜



**逞** たくま  
「しごく育つて欲しい」という父の教育方針から、姉・琳花さんが通っていた糸田町スポーツ少年団柔道部に小学 1 年で入部。小学校高学年で頭角を現すと、優菜さんの負けず嫌いな性格をアスリート向きと見て取ったコーチから、「優菜なら大丈夫。行かないか」と筑豊の柔道の名門・山田中学校への柔道留学を勧められる。柔道の面白さに目覚めていた優菜さんは山田中に進学、柔道漬けの生活が始まる。順調に成長し、3 年生で見事県大会優勝。高校は柔道の名門・大牟田高校に進学。寮生活になり、それまでお母さんがしてくれていた身の周りのことを自分でしなければならなくなり苦労したと言うが、その分親のあ

りがたみもわかり、人間的にも成長できたとのこと。2 年生で県大会 3 位、3 年生で県大会優勝。九州大会でも 2 位になり、優勝候補の一角として高校総体に臨む。2 回戦で優勝候補を破るも、その代償として足を負傷してしまう。それでも準々決勝まで勝ち上がるが、そこで力尽き終戦。しかし堂々の全国 5 位、有終の美を飾った。「両親を高校総体に連れて行くことを目標にがんばつてきました。スポーツ少年団の先生や、山田中の先生、皆さんのおかげで今がある。大牟田高校では過酷な練習に挫けそうになったこともあったが、監督を信じてやってきて良かった。今後感謝の気持ちで忘れず精進したい」と語ってくれた。

Rising SUN from Fukuchi



中村常一郎  
tsuneichiro nakamura

平成 19 年生まれの 14 歳。令和 4 年度福岡県九州中男子柔道 90kg 級 2 位。中村優菜は姉。



**2** 人の姉の後を追いつ、糸田町スポーツ少年団柔道部に保育園の年長で入部。小 6 で県大会ベスト 8 に入り、中学は姉・優菜さんと同じく柔道の名門・山田中に進学した。中学校での一日は 1 時間の朝練から始まる。その内容は、30 分のランニングと坂道ダッシュ 20 本。それもただのダッシュではなく、部員同士文字通りおんぶに抱っこに肩車でダッシュ。聞くだけで吐き気を催すメニューで、徹底的に足腰を追い込む。これだけのメニューをこなした後は、1.5 キロもの重量のお母さん特製弁当をお腹に詰め込みエネルギーをチャージ。正規の部活では乱取り中心のメニューで鍛える。3 年生最後の大会前には、これら

通常の練習に加えて、さらに腕立て伏せ 200 回、懸垂 10 回 3 セット、体幹トレーニング、階段ダッシュなどの自主練で追い込んだ。優勝候補として臨んだ県大会は、順調に勝ち進み、迎えた決勝戦、お互い一步も譲らず延長戦へ。延長戦では、相手の足に手がかかってしまったところで指導を取られてしまふ、惜しくも準優勝となった。常一郎君の理想の選手は五輪 2 連覇の大野将平選手と世界選手権王者の佐々木健士選手。佐々木選手は、組んでよし寝てよし万能型で、外国人に力負けしないフィジカルも併せ持つ、見ていて楽しい選手だそう。二人の偉大な柔道家を目標に、日本一の高き頂を目指して、日々稽古に励む。